

研究プロジェクト総合報告
総合論文

本学の教育理念及び Vision 150を活かした 共通英語教育開発のための基礎研究

飯 田 毅

同志社女子大学・学芸学部・国際教養学科・教授

Fundamental Research on Developing New English Language Courses by Actualizing the Philosophy of Education at DWCLA and Principles of the Vision 150

IIDA Tsuyoshi

Department of International Studies, Faculty of Liberal Arts,
Doshisha Women's College of Liberal Arts, Professor

Abstract

This paper describes the results of a research project named “Fundamental research on developing new English language courses by actualizing the philosophy of education at DWCLA and the principles of vision 150” from 2017 to 2019 (English 2020). The research project had five aims: 1) the development of English reading materials for our students based on our philosophy of education; 2) studies on our students’ English skills, learning strategies, and motivation for learning English; 3) studies on English skills of students in the pharmaceutical and nursing departments to establish a good relationship between the first- and second-year English language courses and specialized courses in the departments; 4) research on English courses using Information and Communication Technology (ICT); and 5) starting a project work aimed at developing a learning community and its evaluation. Based on the aims of the project, seven researchers wrote different papers on this thesis. Related to the first aim, Takahashi explored the interdisciplinary approach of teaching common and shared English in DWCLA. Concerning the second aim, Wakamoto and Imai investigated the structure of college students’ learner strategies to examine how they learn English in college. Imai and Wakamoto analyzed the overall trends in the six categories of first-year college students’ English learning strategies. Hashimoto clarified first-year university students’ motivation to learn English at DWCLA. Regarding the fourth aim, Naruhashi investigated the relationship between general English proficiency and the degree of acquisition of specialized English among students of the Faculty of Pharmaceutical Sciences who took Pharmacy English

A. Concerning the fourth aim, Iida explored first-year students' intensive reading class using ICT to examine students' development of English skills. Finally, concerning the fifth aim, Saeki discussed the significance of crafting and staging an English drama performance as a joint-departmental, project-based approach to studying English as a foreign language at DWCLA.

1 はじめに

本研究プロジェクトは2017年度から2019年度に渡り学芸学部国際教養学科所属の飯田毅、佐伯林規江、薬学部医療薬学科所属の成橋和正、高橋玲、看護学部看護学科所属の橋本秀実、表象文化学部英語英文学科所属の今井由美子、若本夏美の教員7名が取り組んだ共通英語教育に関する総合的基礎研究である。3年の間にほぼ毎月1回ミーティングを開き、各担当の研究テーマについて報告し、研究方法や結果について議論してきた。その主な成果として、2回の大学英語教育学会(JACET)(2018, 2019)における発表、3本の研究論文執筆、本学で実施されたOral Communication Festivalへの参加(2019)、資料集作成(2019)、そしてこの総合論文に収められた論文が挙げられる。本総合論文では、最初に本研究に関する5つのサブテーマに関するまとめを紹介し、サブテーマごとに各自の取り組みをまとめる。

2 研究プロジェクトの目的とサブテーマ

本研究プロジェクトの目的は、本学の教育理念及びVision 150を活かした共通英語教育開発のための基礎研究を行うことにある。本研究には以下の5つのサブテーマがある。

- (1) 本学の教育理念に相応しい英語教材の開発
- (2) 本学の学生を対象とした英語力、学習方略、学習動機などの調査
- (3) 共通英語教育と学部の専門教育のつながりを考えるための薬学部及び看護学部の学生を対象とした英語力についての調査
- (4) ICTを使った英語教育の実施とその成果についての調査
- (5) 「学修するコミュニティ」を活かしたプロ

ジェクトの立ち上げとその評価

3 サブテーマに関する研究のまとめ

上記のサブテーマについては、原則として担当責任者を決めて実施した。しかし、本研究では、それぞれのテーマに関してすべて個人が行うのではなく、全員で取り組んだものがある。その理由の一つは、共通英語というテーマは、本学の英語英文学科と国際教養学科以外の9学科の学生に関わるため、一人の研究者が単独で行うよりも、全員で協力して実施した方がよりよい成果が得られるためである。専門分野を英語教育としている4人の教員にとって、学部学科のカリキュラムやその学生の特徴を理解する上で、3人の他学部他学科の研究者の協力は不可欠である。もう一つの理由は、研究者同士が研究を推進するための協力体制ができていたからである。研究者間の十分な意思疎通は、研究の成果にも影響を与えたばかりでなく、研究者同士のより良い関係を築くためにも重要であった。

次に、本総合論文以前に発表された論文と上記の5つのサブテーマに沿ってまとめられた本総合論文の2種類に分けて述べる。

3.1 本総合論文以前に発表された論文

本号に掲載された論文より以前に発表された論文から年度順に紹介したい。「本学の教育理念及びVision 150を活かした共通英語教育開発のための基礎研究—1年目のまとめと考察—」(2018, 飯田、成橋、橋本、今井、佐伯、高橋、若本、松中)は、1つの論文を4つのセクションに分け、それぞれ2つのサブテーマを扱っている。サブテーマ(1)に関係するものは、飯田の「2. 大学英語教育目的についての一考察—本

学の教育理念との関係から」と高橋の「5. 英語サロンによる超学部間教育の試み」の2つの論文である。前者は、日本の英語教育、特に大学における英語教育の目的について論じ、その目的と本学の教育理念との関係を明らかにしている。後者は、学部学科を超えた課外活動としての英語サロンの実践及び教材開発の具体的方法、実際に作成された教材についてまとめている。サブテーマ(2)に関する論文は、若本の「4. 同志社女子大学1年次生の英語学習者方略」である。全学科1年次生のストラテジー使用はすべて基準である2.5を下回り、またすべての分野において対照群の国際教養学科・英語英文学科の参加者よりも方略使用において下回っていることから、全学科学生が英語学習に消極的であり自ら英語学習に取り組もうとする姿勢に欠けていることが分かった。サブテーマ(3)については、佐伯の「3. TOEIC IP による看護学部1年次生の英語力の現状分析」である。本看護学部1年次生の4技能に関する TOEIC IP スコアは、全国の主に専門として英語を学ぶ大学1年次生の平均スコアと比較すると、speaking 力以外ほぼ同等である、ということが分かった。

サブテーマに(3)と(4)にかかわる研究は、飯田の「大学1年次共通英語教育『英語講読ⅠA, ⅠB』改革のためのアクション・リサーチ」(2018)である。ICTを使った反転・産出型「英語講読ⅠA, ⅠB」は授業としては全体として学生の受け止め方が良く、学習量も他のクラスと比べて多い。ただ、この英語学習の成果は必ずしも ELPA や TOEIC L&R IP のような外部試験の評価に直接的にはつながっていないことが明らかになった。

サブテーマ(2)については、英語学習に対する動機づけにテーマに絞り、「本学大学1年次生の英語学習に対する動機—国際教養学科と看護学科との比較を通して—」(2019、飯田、成橋、橋本、佐伯、今井、高橋、若本)にまとめた。この研究によって、国際教養学科の学生は英語を受験以外の様々な目的を持って学習してきた

のに対して、看護学科の学生は様々な目的よりも、主に受験を中心とした外的要因を中心に学習してきたことが明らかになった。また、両学科の学生は共に小学校から高校までの学習意欲の方が高校から大学までの学習意欲よりも高い状態で学習してきた。大学入学後は、国際教養学科の学生も看護学科の学生も学習意欲が向上している。特に看護学科の学生が高校時代より英語の科目数が少ないながらも学習意欲が高まっている点は興味深い点である。

3.2 本総合論文に発表された論文

次に、本総合論文に収められた論文についてまとめる。サブテーマ(1)は、高橋が担当した。異なる学部学生間の交流による「学際的 interdisciplinary」な英語学習の場を学内に設置し、共通英語教育プログラム開発に有用な情報を収集する。教育背景の異なる学生間の相互作用を最大限に引き出すために、少人数自由参加型の英語サロンを試行し、そこから得られる script の共有とは何かについて考察する。

サブテーマ(2)については、若本、今井、橋本が研究に取り組んだ。若本・今井は大学1年次生の英語学習方略の構造について研究し、2018年1月に6学部11学科の1年次生(1200名)を協力者とした英語学習方略に関する質問紙調査を行った。6つのカテゴリーにおける1年次生の英語学習方略の構造を因子分析から探る。今井・若本は大学1年次生の英語学習方略における全体的傾向について取り組み、2018年1月に6学部11学科の1年次生(1200名)を協力者とした英語学習方略に関する質問紙調査を行った。6つのカテゴリーにおける1年次生の英語学習方略の全体的傾向をヒストグラムから探る。橋本は、本学の6学部10学科の1年次生の英語学習に対する動機について質問紙調査を行った。

サブテーマ(3)は成橋が担当している。一般英語能力と専門英語の修得能力との関連性についてまとめている。薬学部3年次春学期必修科目「薬学英語A」における学生の英語能力を、開講時(初回)に実施して英語試験(一般英語:

ELPA)の成績と、薬学英语の修得との関連性について論じる。

サブテーマ(4)は、飯田がまとめた。飯田は、2年間実施したICTを使った英語リーディング授業の成果を検証する。授業アンケートを使って学生の授業の受け止め方を調査し、外部試験を利用して、語彙力、文法力、リーディング力、リスニング力を調査した。また、内部試験としてのライティングテストを実施し、学生の学修量をICTに組み込まれているマイル数によって測定する。

サブテーマ(5)は、佐伯の取り組みである。佐伯は、2019年12月に、大学英語教育学会(JACET)と本学国際教養学会の共催で京田辺キャンパスラーニング・コモンズイベントスペースを会場として、JACET Oral Communication Festivalを開催した。24回目となるこの大会を、本学がホスト校として、学芸学部国際教養学科4年次生が全イベントの企画から運営までを務めた。また、この大会でのプレゼンテーションを最終成果発表として、同学科の3年次生と薬学部の1年～5年次生が共同で英語によるドラマ・パフォーマンスに取り組んだ。この制作と学習の過程を振り返り、学びの主体となる学習者の側面とマネジメントの側面から、学部・学科を越えた共同ドラマ制作プロジェクトの意義と課題について考察する。

以上、本研究プロジェクトの目的、成果、サブテーマに関するそれぞれの論文について紹介した。この基礎研究が何らかの形で本学の共通

英語教育に資することを期待したい。

参考文献

- 飯田毅, 佐伯林規江, 今井由美子, 橋本秀実, 成橋和正 (2018). 「ICTを使った産出型 reading 授業の成果」JACET 第57回国際大会(東北学院大学).
- 飯田毅, 成橋和正, 橋本秀実, 今井由美子, 佐伯林規江, 高橋玲, 若本夏美, 松中みどり (2018). 「本学の教育理念及び Vision 150を活かした共通英語教育開発のための基礎研究—1年目のまとめと考察—」同志社女子大学総合文化研究所紀要, 35, 45-81.
- 飯田毅 (2018). 「大学1年次共通英語教育「英語講読I A, I B」改革のためのアクション・リサーチ」同志社女子大学学術研究年報, 69, 1-18.
- 飯田毅, 佐伯林規江, 今井由美子, 橋本秀実, 成橋和正 (2019). 「英語を専門としない大学生の英語学習に対する動機—英語専門学部の学生との比較を通して—」JACET 第58回国際大会(名古屋工業大学).
- 飯田毅, 成橋和正, 橋本秀実, 佐伯林規江, 今井由美子, 高橋玲, 若本夏美 (2020). 「本学大学1年次生の英語学習に対する動機—国際教養学科と看護学科との比較を通して—」同志社女子大学総合文化研究所紀要, 37, 1-20.
- 飯田毅, 成橋和正, 橋本秀実, 佐伯林規江, 今井由美子, 高橋玲, 若本夏美 (2019). 「本学の教育理念及び Vision 150を活かした共通英語教育開発のための基礎研究」(English 2020) 資料集.